

静岡のHKSと藤枝市、幼児の車内置き去り防ぐ装置開発

認や安全装置の設置を義務化することに先んじ、官民一体で製品開発を目指す。



ンストレーションでドライバーが2人の園児を残してバスを離れると、ク

HKSが実証実験を行うのは藤枝市の藤枝順心高等学校付属幼稚園だ。同幼稚園は送迎バスを3台保有し、371人の児童のうち115人がバスを利用して通園している。同園の鈴木季彦副園長は「最後は人の手で確認するのが原則だが、人命を守るためにも機械が補助してくれるのがありがたい」と話す。

実証実験で使われるシステムは現在仮称として「MAMORU（マモル）」と名付けられている。実証実験ではセンサーやカメラなど5つの機器を組み合わせて子どもの置き取りなどを検知する。

まずドライバーが送迎バスのエンジンを切ると音声案内が流れ車内の確認を促す。職

る。車内に子どもが取り残されていた場合、赤外線による人感センサーが子どもを検知。センサーからの情報を受けシステムの司令塔を担う通信機器がクラクションを鳴らしハザードランプを点灯させる。メールでも子どもの置き去りの発生を通知する。



でもどの場所で置き去りが発生した

マモルの開発期間は約1カ月。短期間での開発が可能になった理由は同社が販売している既存の機器を組み合わせたからだという。同社担当者は「従来農業用トラクターやコンバインの転倒防止やビニールハウスでの水やりの管理などに使われる通信機器が転用できた」と話す。

発売を予定している。同社の担当者によると、機器自体は10万円程度で、メールでの通知などの通信を行うための機器にかかる通信費として月額約1500～2000円程度かかることになるという。

藤枝市は今後HKS以外のメーカーとも同様に取り組む方針だという。また国の置き去

紹介などをしていく予定です。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.

について説
校付属幼稚

防止

証実験

藤枝の幼稚園

送迎バス内に取り付ける
センサー＝HKS提供

市の認定とも園に通う女児がバスに取り残され熱中症で死亡した事件を受け、政府が来春から安全装置の設置を義務化するのに先駆けた取り組み。同園は3カ月の試用を経て装置を本格導入する。

藤枝市によると市内初の実証実験という。使われた装置は、富士宮市の自動車部品メーカー「エッチ・ケー・エス（HKS）」が開発し、車内確認スイッチと検知センサーを備えている。運転手がエンジンを切ると①降車確認を促す自動音声が発せられる②運転手らが車内点検③最後尾の座席付近にあるスイッチを押して

押して音声を止める――といった流れだ。この日はスイッチのほか、センサーの動きも確認した。試しに園児2人を車内に残したところ、乗降口などに取り付けられたセンサーが反応。自動的にクラクションが鳴り響き、園児が置き去りになっていることを周囲

に知らせていた。同園は送迎バスを3台保有し、在籍する園児約370人のうち3割が利用している。鈴木孝彦副園長（66）は「最終的には人の目による確認が重要だが、ヒューマンエラーを防ぐためには役立ちと思う」と期待を込めた。

【深野麟之介】

2022年11月22日 読売新聞

[illegible]

証実験が21日の藤枝順心で始まり、

見聞知

証実験が21日の藤枝順心で始まり、

園の関係者が装置の機能を確かめた。

装置を開発しているのは、富士宮市の自動車部品メーカー「エッチ・ケー・エス」。米春以降、全国の幼稚園や保育所などの通園バスで設置が義務となる安全装置としての製品化を目指す。同付属幼稚園の送迎バスで約3か月間、試験的に使用してもらい、有効性や課題などを把握する。

装置を設置すると、エンジン停止後、車内に園児がいなくなれば点検を促す音声が流れ、車内最後部のスイッチを押さないと言音が消えないという。また、園児が取り残されると、車内前部のセンサーが園児の動きを感知し、ハザードランプ点灯やクラクションの音で外部に異常を知らせる。園のスタッフに緊急メールを届けることもできるという。

この日は、バスの運転手

が音声に従って車内を点検してスイッチを押したほか、取り残された園児をセンサーが感知してクラクションの音が鳴るなど、装置が作動する様子を園や市の関係者が確認していた。

同社開発部の大庭典子課長は「自動車部品の会社として社会の役に立つ商品を作りたい」と話した。約3割の園児をバスで送迎する同園の鈴木孝彦副園長は「園児の安全確保に役立っているかを検討したい」と話していた。

②置き去
された場
内に設置
藤枝順心

園児感知通報

国が来年度から通園バスに園児の置き去りを防ぐ安全装置の設置を義務化するのを受けて、藤枝市の藤枝順心高付属幼稚園で21日、装置の実証実験が始まった。

富士宮の企業開発 藤枝の幼稚園で実証実験

た。バス内に園児が取り残された場合、センサーが反応して外部に知らせる仕組みを導入する。

富士宮市の自動車部品メーカー「エッチ・ケー・エス」が開発した。バス内に設置するのは赤外線の人感センサーや確認スイッチなど五つの装置。取り残され

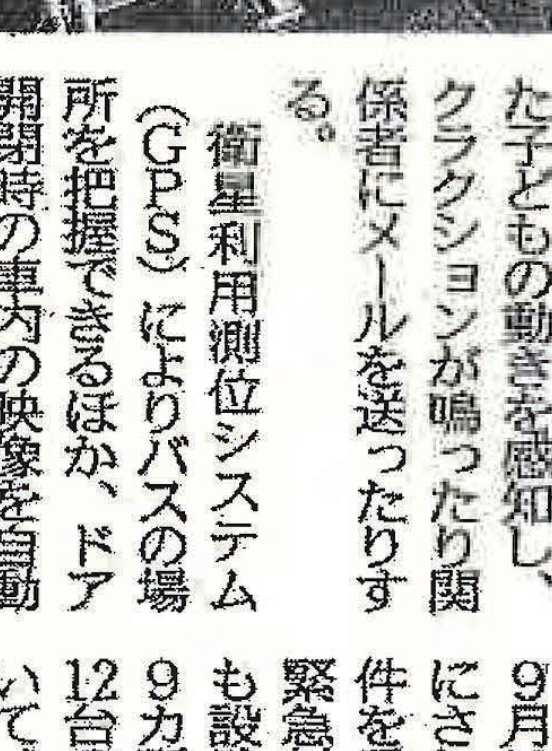
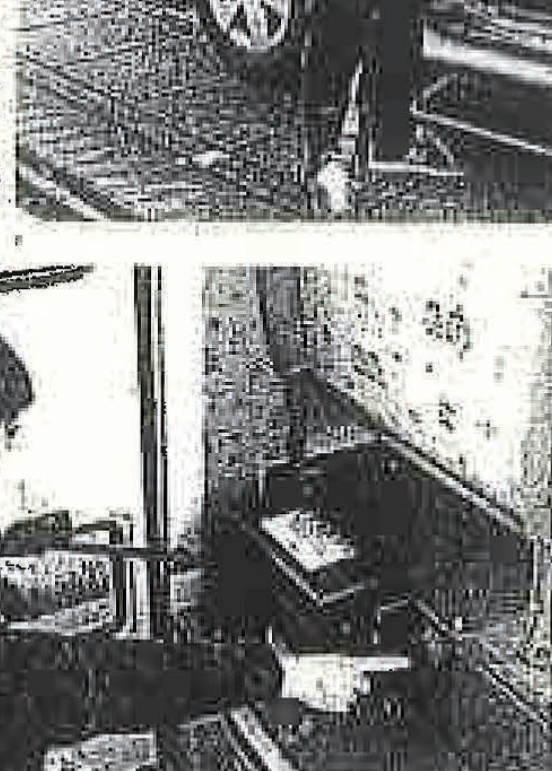
た。バス内に園児が取り残された場合、センサーが反応して外部に知らせる仕組みを導入する。

同社IoT商品開発課の大庭典子課長は「忙しな施設職員の手間を増やさずに活用できる仕組みを目指した。培った技術が人の役に立てば」と話した。

安全装置の設置義務化は牧之原市の認定こども園で

9月、通園バスに置き去りにされた女児が死亡した事件を受けて国が進めている緊急対策の柱で、補助制度も設ける方針。藤枝市では9カ所の私立保育施設で計12台の通園バスを運用している。市は実証実験の実施や補助を活用した導入を呼びかける。

(藤枝支局・岩下勝哉)



止装置の実証実験。園児が車内に残ったままの状態で、バスが動き出すのを感知して、バスに警報を送る仕組み。藤枝市の順心高付属幼稚園で21日午後、藤枝市の

